



# ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当:上越市自治・市民環境部 共生まちづくり課

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111 (内線1406) FAX.025-526-6114

ホームページ⇒

ふるさと上越



春日山城址・上杉謙信公銅像 撮影 松本 栄規さん

## 「たより」No.262 目次

会員数と「ふるさと市場」販売報告	1
」ネットの活動とお知らせ	2
同窓会・郷友会のご案内	4
とれたて上越	4
・上越の行事・展示会の予定	
・上越の話題	
古民家と旧家でカフェ、書籍の刊行	
なんでも上越	6
・上越 災厄あれこれ 北越出版代表 佐藤和夫	
上越産品販売のお知らせ	7
会員ひろば	8
鯉橋師匠高座予定	16
」ネットからのお知らせとお願い	16

## 会員数と「ふるさと市場」販売報告

- (1) 会員は現在 600 名です。(令和 2 年度目標 610 名)
- (2) 「ふるさと市場」(6 月) の販売状況  
合計 52 件 ¥68,110 (前年同月 23 件 ¥34,807)

### 1. 令和2年度定時総会の表決報告

令和2年度定時総会は、コロナ禍による自粛要請を受けて、書面決議の方法により行なわれました。期限の6月15日までに投函された葉書による表決個数は121個。全ては賛成ないし議長への委任で、反対は0個であり、全議案は承認されました。

なお、お葉書には、Jネットへのたくさんの激励、応援のお言葉をいただき、まことにありがとうございました。心強く感じております。

### 2. 当面の諸会合について

Jネット活動の根幹である諸会合は、コロナ禍により、その実施につき変更を余儀なくされています。このほど、運営委員会を経て、理事会にて下記の通り、令和2年度末までの指針を設定させていただきましたのでお知らせいたします。

#### (1) 考え方

- ① 会員の安全が第一。
- ② 必ずしも会合を必要としない活動（下注参照）を活発化、さらには、会合を伴わない活動を創出していきたい。

（注）「たより」やHPの活用、上越製品の販売促進、上越の宣伝や売込み発信、上越へのノウハウ提供、上越関連の相談対応、ウェブ交流等。

#### (2) 会合の形態は下記の4形態。

- ① 実際の会合。  
「社会的にみても、コロナ禍がコントロールされ、会合の安全性が条件付きでも確認される」まで延期。ただし、会員多数の要請がある場合は、3密回避の実施方法を確認のうえ、開催もありうる。その場合、出欠は、あくまでも、会員個人の意思を尊重し、出席は各個人の意思と責任による。
- ② メール / 書面 / Fax による会合。
- ③ ウェブ会合（PCおよびスマホによる会合。ZOOM等利用）  
Jネットのウェブ会合は、すでに準備が整い、いつでもスタートできます。  
ただし、ウェブ会合未整備会員への対応、複数人の同時発言ができないこと、話題の数も絞られることから、通常の大勢の会合代用へのハードルは高い。  
ウェブ会合開催の予定は、HPに掲載しますので、ご覧ください。
- ④ 上記会合形態の組み合わせによる会合。

### 3. 8月の東京サロンは休会。名古屋サロンは休止。近畿サロンは未定。

7月に入り、関東地区でのコロナウイルス感染再拡大の懼れがでてきました。この度の会合活動指針にもとづき、8月の東京サロンは休会します。9月以降の予定は、「たより」やHP、あるいは事務局にてお問合せください。

なお、名古屋サロン（当初9月予定）はしばらく休止、近畿サロン（12月予定）については、開催未定です。

## 4. 講演会は延期

9月27日予定の講演会（講師：瀧澤康二氏、演題：オリンピック・パラリンピック運動とは）も、令和3年度定時総会日に合わせて、令和3年5月22日（土）に延期します。楽しみにお待ちされていた会員もおいでですが、ご了承ください。

## 5. 上越での交流会は取りやめ

上越までの長距離移動の安全性が確認されず、また、上越でも秋口の飲食を伴う数十人規模の集会はほぼ中止となっています。会員より開催切望のお声もありましたが、会合活動指針に基づき、まことに残念ですが、今期の交流会は取り止めます。



高田城址公園くもうすぐかわいい蓮の花が池一面にさきみだれます>

（撮影 松川 太賀雄さん）

## 6. HPのリニューアル 上越タイムス電子版が閲覧できるようになりました（会員専用）

お知らせしました通り、本年4月1日（水）に、HPのリニューアルを行いました。ぜひとも、ネットにて、「ふるさと上越ネットワーク」、または「<https://joetsu.gr.jp/>」を検索して、ご覧ください。ふるさと四季の写真やお知らせ、それに「たより」もご覧いただけます。

上越タイムス社様ご協力により、上越タイムス電子版が閲覧（会員専用）できます。



- ① HP右肩「Jネット会員の方:会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし上越タイムス社HPへ
- ③ 下記のID\*・PSW\*にてログインしてください。

ID →  PSW →

《※ 会員様限定でID・PSWを通知しております。》

## Ｊネット「たより」ならびにＨＰの記事を募集します。

Ｊネットは上越大好き人の集まりで、交流を通じて、上越を応援しています。その情報ツールが、「たより」やHPです。

会員の皆様には、ぜひとも、上越の魅力、上越に役立ちそうなこと、会員の親睦を深めることなどなんでも結構ですので、記事（1200字程度まで）と写真を送信いただければ幸いです。

送信先：k.miyazato@araipt.co.jp

## 同窓会・郷友会のご案内

### (1) 東京牧村会（鈴木勉会長）

第24回総会・懇親会は10月18日（日）上野精養軒にて開催の予定でしたが、コロナ禍のため取り止めとなり、葉書による表決となりました。

### (2) 高田北城高校同窓会本部総会

上越での本部総会は、本年は同校創立120周年を記念し、10月24日（土）開催の予定でしたが、取り止めとなりました。なお、同校では、式典と祝賀会は中止し、講演会は日時を変更して、出席は生徒と教職員に限定して行われる予定です。

## とれたて上越コーナー

### (1) 上越の行事・展示会の予定

コロナ禍により、この夏のビッグイベントも中止、もしくは部分的実施と決まりました。まことに残念です。その分、来年に期したいと思います。なお、下記の行事には、感染拡大対策がありますが、ご参加には十分ご注意ください。併せて、状況次第では、中止もあり得ることを申し添えます。

#### ① 高田城址公園観蓮会

高田公園の高田城址公園への名称変更に伴い、今年から、上越蓮まつりは「高田城址公園観蓮会（かんれんかい）」となりました。東洋一の規模の蓮が楽しめます。

- ・会 期 令和2年7月18日（土）～8月23日（日）
- ・開催内容 高田城址公園を含めた市内モデルコースを作成（SNSや市HPご参照）  
市内飲食店による「蓮の御膳」の販売

【実施しないもの】観光ボランティアガイド、物産展、はす麺販売、上越オクトーバーフェスト、  
お問合せ先 高田城址公園観蓮会実行委員会事務局（上越観光コンベンション協会内 TEL:025-543-2777）

#### ② 企画展「直江津今町と北前船の時代」 上越市立歴史博物館

古くから日本海側有数の湊町で、高田藩の外港であった直江津今町。江戸時代から明治時代まで北前船の寄港地となり、城下町高田や頸城郡内、そして信濃への物資流通拠点でした。

本展では、「日本遺産」に認定された北前船と直江津今町の関わりについて、市指定文化財の福永家文書や船絵馬のほか、市内に残る船筆笥や船名板などの資料から紹介します。

期間：令和2年7月18日（土）  
～10月18日（日）



### ③ 企画展「越後上越 謙信公と春日山城展」 上越市埋蔵文化財センター

戦国の名将・上杉謙信公やその居城・春日山城を中心に、戦国時代の歴史を紹介。

春日山城のジオラマの展示のほか、謙信公の生涯をタッチパネル等で詳しく紹介しています。上越で味わえない歴史エンターテインメントをぜひご堪能ください。

期間：令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)

### ④ 伝統の漁法を体験しよう！ 鵜の浜温泉 観光地引網

漁師が仕掛けた網を掛け声とともにみんなで力を合わせて引き上げます。

日本海の貴重な思い出となることでしょう。

実施日時：9月13、20、22日の7:00より



## (2) 古民家と旧家でカフェ

### ① 古民家カフェ「平左衛門」の今季営業開始



上越市横畑(桑取)の古民家カフェ「平左衛門」は、6月から営業再開。築約170年の古民家を利用したカフェでは、湧き水で入れるコーヒー、麴の甘酒やこだわりのお米の「ハサがけおにぎり」が人気。夏の「ひんやり湧き水かき氷」も名物。営業時間は、金、土、日、祝日の午前11時から午後4時まで。今年11月末まで営業。電話080-6558-1726まで。

(上越タイムス記事より)

### ② 林富永邸にカフェがオープン

三和区神田の旧家・林富永邸に「CAFÉ HAYASHI」がオープン。市指定文化財の同邸で、庭を愛でながら、コーヒーや和紅茶それに同じ三和区の雪中梅の酒粕を使ったパウンドケーキやぜんざいなどが楽しめる。営業時間は、金、土、日の午前10時から午後5時まで。

◇当面は、予約が必要。電話025-532-2602まで◇

## (3) 書籍の刊行

### ① 「課題で書く800字エッセイ」佐藤光子著

著者の佐藤光子さんは、Jネット会員で、いくつもの文学賞に入賞した作家であり、しかも俳人でもある。「文芸たかだ」にも毎号、味わいのあるエッセイを寄せている。その佐藤さんが、このほど、「課題で書く800字エッセイ」を出版した。

内容は、不可思議にもカルチャーセンターに通う著者がそこで書いたエッセイに講師の先生が感想を述べるというものだが、ご両者の気持ちと技のやり取りは、穏やかながらも真剣勝負。帯の言葉の通り、エッセイを書くって楽しいことであり、エッセイの教則本としても役割を果たせる本である。

(発行：東京図書出版、発売：リフレ出版。頒価1200円+税)



### ② 「瞽女力入門」国見修二著

「良い人と歩けば祭り、悪い人と歩けば修行」。瞽女さんの言葉は人生に勇気や豊かさを与えてくれる。このたび、映画「瞽女 GOZE」の公開に合わせて、小林ハルさんや杉本キクイさんの言葉などを中心に瞽女さんたちの92の言葉を集めて「瞽女力入門」が発刊された。著者は、妙高在住の詩人で、高田瞽女の文化を保存・発信する会の理事、国見修二氏。

胸を打つ数々の言葉のほかに瞽女の解説紹介もあり、最後は、「瞽女 GOZE」の瀧澤正治監督の言葉で締めくくられている。

(発行：玲風書房、発売：春陽館、瞽女ミュージアムなど。頒価税込1200円)



### ③ 「レシピ遺産 - 上越地域に伝わる山のごちそう」 信田紘基著

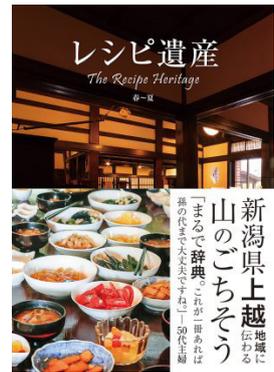
著者は、居酒屋YAGAIYA（上越市中央1）の代表。上越にUターンし、おばあちゃんの作る田舎料理こそが地域の食文化と気づき、市内のおばあちゃんたち取材し、桑取の山口ユキさんを先生にして、まとめあげて発刊したのが「レシピ遺産 - 上越地域に伝わる山のごちそう」。

まさに、郷土料理のレシピ遺産として貴重な記録でもある。ちなみに表紙の写真は「古民家カフェ平左衛門」で撮影。

（発行：護コンサルティング事務所）

発売：上越・妙高・糸魚川の書店、コンビニ 定価税別1,800円）

（上越タイムス記事より）



## なんでも上越

上越に、北越出版あり。昭和48年創業以来、100冊以上の書籍を世に送り、直江津を中心に上越の歴史を語り継ぐ。地方の一人出版社にもかかわらず、その仕事は幅広く上質と定評。上越信金発行の地方情報誌「直江の津」の編集も引き受けており、代表の佐藤和夫氏は、「まちおこし直江津」代表としても、街歩き、イベント、講演会などで活躍されており、直江津今町の歴史に通じ、北前船研究の泰斗でもあります。

このたびは、世情を騒がすコロナ禍にまつわり、佐藤代表に、「直江の津」最新号特集から、上越の疫病災危の歴史についてご寄稿をお願いしました。

### 上越 災危あれこれ

北越出版 代表 佐藤和夫

平安初期の貞観（じょうがん）11年（869）、頻発する自然災害や疫病の流行を鎮めようと、歴史に残る最初の災厄退散の祭りが京都御所の神泉苑で行われました。祇園御霊会（ぎおんごりょうえ）と言い、当時の国の数の66本の鉾を立て、鉾先に災厄を集めて退散させました（室町時代に祇園祭が復活するとき姿を変え、町衆の力を誇示する今に見るような山鉾になった）。祇園祭の始まりです。

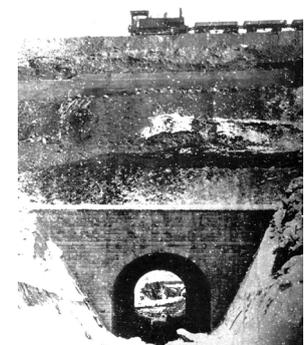
祇園の神様牛頭天王（ごずてんのう）は仏法の守護神であり素戔鳴尊（すさのおのみこと）と一体のものとされ、牛頭天王（素戔鳴尊）に一夜の宿を貸して厄除け神となった蘇民将来（京都の祇園祭で売られる粽にお札がつけられている）とも一体という、八百万の神様の世界です。総本山の京都八坂神社は、明治の神仏分離で祀神を素戔鳴尊として八坂神社と名称を改めるまで、神仏習合の祇園感神院・祇園社と呼ばれていました。

直江津の八坂神社（今町祇園社）も全国の国府の地に分霊された一社です。期間の半分を高田城下で行う珍しい祇園祭は今年で406回になりますが、「直江津町史」に疫病退散の逸話が書かれています。

安政5年（1858）に暴瀉（ぼうしゃーコレラのこと）が全国的に流行し、直江津今町もわずか1か月で百数十人も死亡しました。八坂神社では疫病退散の祭礼を執行しましたが効果なく、神官が町を祓いて回っても終息せず、境内に屋形を建て御天王様（牛頭天王）の神輿を安置し、三日三夜神楽を舞って祈願をしたところ、悪疫はようやく退散し「御神徳をもって疫鬼退散せり」と、高田藩庁へ届け出たということです。



（直江津八坂神社祇園祭の神輿）



（太田切築堤工事）

もう一つ、明治19年に流行したコレラについて「直江津こぼれ話」（中戸賢亮著）は、直江津の真宗3寺院だけでも240名の死者を記録し、善光寺浜一帯は昼夜を分かたず火葬の煙が絶えなかったと書いています、直江津での蔓延の理由は、5月、村松三十連隊の許婚に会うため海路、徳島から直江津港に着いた母娘がコレラに感染していて（二人とも死亡）、持ち込んだのではないかと著者は推測しています。

この流行について興味深いことがあります。

信越線の直江津・関山間が開通したのは明治19年8月、その先の田口（妙高高原）に達するためには、妙高山を源とし関川に合流する深い溪谷を横断しなければなりません。しかし大規模な橋梁工事は技術的に無理なので、写真のようにまず水路トンネルを構築し、線路敷まで土盛りをしました。その一つの大田切築堤工事では79名の死者を出しましたが、その霊を弔うために建立された「大田切工事碑」には、驚くことに63名が「悪疫（コレラ）に倒れた」と記されています。工事の記録には、作業場が不潔であったためとして、感染経路について言及していませんが、直江津から鉄道によって大田切の工事現場まで菌が運ばれたことは十分想像できることです。（白田切築堤は昭和52年の土石流災害で流失）



（太田切工事碑）

※本稿は「直江の津」第46号のために書いたものの一部です。

●（Jネット事務局より）

・「直江の津」最新号の第46号（税別500円）は、春陽館書店、知遊堂、ホテルセンチュリーイカヤ、ホテルハイマート、なおえつ茶屋、柿村書店事務所にて入手できますが、遠隔地からは上越信金営業統括部 025-543-3184 にお問い合わせください。

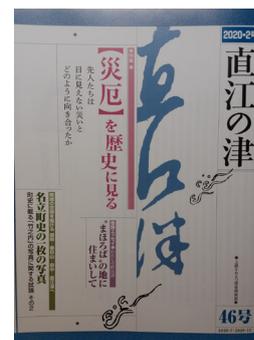
・北越出版（代表 佐藤和夫）

地域の出版・自費出版・原稿整理や歴史資料の調査

〒942-0084 新潟県上越市国府3-9-5

TEL025-543-9715 FAX025-512-5090

メール hokuetu@seagreen.ocn.ne.jp



（直江の津 第46号）

## 上越産品販売のお知らせ

- Jネットふるさと市場の「取次販売商品一覧」は、今月お休みします。

販売商品は各社パンフをご覧ください

- 「新潟・上越妙高 うまさ直送！雪国マルシェ」

恒例の上越特産品販売の「雪国マルシェ」は、下記にて予定しています。

日時 8月22日（土）、23日（日）11：30 - 17：30

会場 有楽町 交通会館1F ・お問合せ先：JCV東京情報センター（TEL 03（5218）7730）

- 上越産品のギャラリーショップと新店舗開設（予定）のお知らせ。

交通会館4FのJCV東京情報センター「ギャラリーショップ」は7月1日より営業再開しております。また、交通会館1Fに開設予定の上越産品販売店舗は10月の開設を予定しています。

・お問合せ先：JCV東京情報センター（TEL 03（5218）7730）

### (1) 加藤晃美会員、上越移住インフルエンサーに

上越在住の加藤晃美（てるみ）会員は、このほど、他の4人とともに、市より上越移住インフルエンサーを委嘱されました。任期は令和3年3月末まで。

移住インフルエンサーとは、先輩移住者としてこれから移住を検討する人に好影響を与える人で、移住者ならではの視点から、地域の魅力や暮らしぶりを定期的にSNSで発信します。

加藤会員は川崎市出身、ご主人の関係で上越に移住。現在は、上越市御殿山にて、(株)高田デザインスタジオを経営、宅建士やファイナンシャルアドバイザーとして活躍される一方、上越の魅力や情報をフェースブック等で発信しています。インフルエンサーとして最適な人材です。昨今、関東からの移住の相談が増えているとのことですので、上越の応援団たるJネットとも相互に連携や協力の機会が増えそうです。



### (2) 藤沢理事より退任ご挨拶

#### 理事ならびに運営委員の活動を振り返って

藤沢勝一郎（旧高田市出身 大網白里市在住）

平成9年7月30日のJネット設立総会から理事、その後運営委員会委員として活動してまいりましたが、今年度総会をもちまして、退任させていただくことと致しました。

Jネットの設立目的は、上越市とゆかりのある人たちから、まちづくりを支援してもらうため。つまり、上越市の応援団です。そのため、①ふるさと上越が好き ②ふるさと上越との交流をもっと深めたい ③ふるさと上越の情報をもっと知りたい ④上越にゆかりのある人たちと交流の輪を広げたい ⑤ふるさと上越の発展の役に立ちたい、この5項目を満足する方1,200人を目標に会員募集し、1,000人近くまで達したことがあります。活動事業は、毎月の東京サロン、年1回の名古屋サロンと近畿サロン、春・秋に上越市を訪問するふるさと交流会（秋はH25年以降中止）、文化講演会、勉強会、ふるさと市場や上越市各種審議会委員推薦などのふるさとまちづくり支援等です。

私は、このうち年2～4回実施する勉強会を担当しました。H17年にサロンでの懇親に加え各所を見学して見聞を広めるべきとし、第1回見学先としてサッポロビール千葉工場の提案が発端です。

この見学実施後、事務局長（当時は市のJネットを担当する企画課長）から「市からの交付金は市民の税金であり、市民に説明できる上越市関連個所にしてほしい」旨の要望がありました。

ご要望に応え、第2回は知っている会員がごく稀な前島密翁の菩提寺・お墓詣りとH18年2月の、直江津沖でのメタンハイドレート発見船の所有者で、かつて私が出向した海洋研究開発機構の見学です。両方とも横須賀市内にあります。ちなみに第1,2回とも全額、参加者の自費でした。

第3回以降は、和久井会長や理事・運営委員、サロン参加者のご協力や私自身で調べて見学先を選定し、第9回以降では上越市との関係の有無にこだわらないこととしました。

もう1つ担当したのは、近畿（大阪）サロンへの出席です。参加者は多い時で30名程でした。大阪では、終生忘れられない事件があります。H23年12月1日の尾崎宗秀Jネット副会長の非業の死です。犯人は同月6日に逮捕され、もう1件の殺人も自供。H31年2月12日死刑確定しまし

たが、尾崎さんには子供の頃に家が近所でかわいがられていたとのことですから、近畿サロンでは何かとお世話になり、尾崎さんの人柄を知る私にとって何とも言えないやりきれなさの残る事件でした。

このようなことが次々と思い出されますと同時に、退任に当たり、これまでお世話になった皆様に心からの感謝を申し上げます。

●藤沢様は、Jネット立ち上げから本年定時総会までの約 22 年間、理事ならびに運営委員を務められました。まさに、Jネットの生き字引であり、いろいろな場面で藤沢様に教えられ、助けられた方も多いのではないのでしょうか。

Jネットの運営でも、上越総合技術高校同窓会関東支部の代表という立場を超えて、積極的に携わってこられました。とりわけ、勉強会では、全 45 回のうち 27 回は、企画担当兼幹事役として、見学対象の選定から事前の下見と手配、パンフ作り、当日の引率、そして昼食や懇親会の手配まで、なにもかもお世話いただきました。近畿サロンも大阪の幹事役とともにその推進に務めてこられました。

またJネットを代表して、上越市食料・農業・農村政策審議会委員を来年まで引き受けられておられます。その藤沢様のご退任は残念の極みであり、Jネットの宝がひとつ失われた思いがします。ここに、あらためまして、藤沢様の多大なご尽力とご支援に対して、深い感謝の意を表します。

(T. I)

## 会員投稿コーナー

### 藤井昭正先輩の手記

佐藤 稔 (旧高田市出身 奈良市在住)

#### ふるさと上越ネットワーク事務局殿

5月にJネット事務局から「雁木散策」の冊子が、高田商業高校の先輩、藤井昭正氏のもとに届き大変懐かしい気分で見ましたとの手紙と併せ 70 有余年前の「ふるさとの思い出」の手記を同封してくれました。

学生時代……太平洋戦争と学徒動員、昭和 20 年の出来事学制改革と就職等貴重な体験を興味深い思い出の手記。これを独り占めしてしまうのは申し訳ない。大事に仕舞い込んで埋もらせるのは勿体無い。それでは、Jネット「たより」に掲載してもらったとの思いで、執筆者の了解を得ました。取り上げてもらえれば幸甚です。

#### 藤井昭正先輩の紹介

新井市姫川原(旧豊里村)現妙高市出身 兵庫県尼崎市在住

1943年(昭和18年)県立高田商工学校(現高田商業高校)入学

1948年(昭和23年)同校卒業(33期生と聞いています。佐藤)

1991年(平成3年)住友金属工業(監査役室検査役、定年と思う。佐藤)

2016年(平成28年)高田商業高校 100周年記念式典出席(同期生がいなく寂しかったとのこと 佐藤)

現在 90 歳 月 3 ~ 4 回図書館に通い西宮図書館で得た江戸時代越後高田の大地震(1751年直下型地震)の文献(近世の巨大地震、吉川弘文館矢田俊文著の)コピーも貰いました。2017年(平成29年)奥様逝去されるも元気で関西の吉祥寺古街道の散策もされています。

## ふるさとの思い出

藤井昭正（学徒動員、昭和 20 年の出来事、学生改革と就職……高田商工学校時代）

故郷の懐かしさに刺激されて 75 年前のことを思い出し体験、思い出をメモしました。

私は、昭和 18 年中等学校へ入学したのですが、戦後知ったことでは当時すでに負け戦で日本の南洋統治の要であるサイパンが米国にヤラレ B 29（四發の超重い爆撃機）による日本無差別爆撃が始まる時期でした。

### 1. 三菱重工名古屋行き取り止め

昭和 19 年新潟県立高田商業（当時は工業学校に、私達のクラスは機械科）の 2 年生は学徒動員で三菱重工名古屋航空機工場に動員していた上級生と交代し、名古屋へ行くことになっていました。

前月 11 月東海地方に大地震が襲い愛知県を中心に多くの人命が失われ物的にも大被害があったと聞きました。戦時下の当時厳しい報道管制下、新聞、ラジオでは戦意にかかわるニュースは流されませんでした。

地震の被害のあと B 29 の大空襲で同工場は機械的にやられたと後で聞きました。当時同工場には一般工員のほか男女多数の学徒動員生が勤務しており数百人に上る犠牲者が出たとのことでした。しかしわが校の生徒は一人の犠牲者もありませんでした。生徒に大変嫌われていた引率先生の的確な判断で一人の怪我人もなく隠れた美談でした。

### 2. 地元工場に学徒動員

三菱名古屋の工場が壊滅的被害を受けたため私等のクラスは急遽高田市内の工場に分散して働くことになり、26 人は陸軍の監督工場へ、（ここは待遇が良かったと聞いていた）私は駅から 45 分ほど歩いた海軍監督工場で働くことになりました。大山製作所といいましたが、この町工場ではどうもいない生徒を押し付けられたのだと感じました。

昭和 19 年～20 年の新潟県下は数十年ぶりという大豪雪でした。12 月上旬から降り出した雪は止むことなく 3 月まで降りました。

12 月はそれでも遅れながらも汽車は動いていました。昭和 20 年の 1 月 4 日か 5 日大山製作所へ行きますと、工場のキューポラ炉の高い建屋が雪の重みで無残に潰れていました。

雪は 12 月上旬から止むことなく降り続いていました。まもなく汽車は不通になりました。我々汽車通の生徒はどうすることもできません。

### 3. 昭和 20 年の大豪雪

我が家（新井市姫川原（元：豊里村）現在は妙高市の出身）は信越線の新井駅から雪道で約 35 分、同級生にはもっと遠くから通っている人もいて中には冬の 3 ヶ月だけ親戚・知人の家に下宿している者もいました。

雪は間断なく降り続き、私と父親は毎日屋根の雪降ろしです。当時近所の若い男は皆兵隊にとられ女子供ばかり、自分の家だけでなく近くの家も放っとくわけにはいきません、たまたま私の父（45 才）は、55 軒ある集落の副会長でもあり出征兵士の家族の家の雪降ろしもしなければなりません。父と二人で来る日も来る日も屋根の雪降ろしです。父は右利き、私は左利き、このときは喜ばれました。父は右から、私は左から。ずいぶん能率が良いのです。朝の 8 時頃から昼 4 0 分ほど飯を食いに降りるほかは暗くなるまで屋根の雪と格闘です。近所の屋根は大概上がり

ました。嬉しかったのは一部、飯をご馳走になったことです。「あんちゃも一緒に」と云ってくれ  
るとなんだか大人扱いしてもらったような気になり嬉しくなったことを記憶しています。近所の  
家の雪降ろしばかりしていたら、母が「家の下家もミシミシ音がしてきた。」と言います。私だけ  
家の雪降ろしをしたこともありました。屋根の雪も3～4回降ろすとその雪を更に遠くに除雪し  
なければなりません。これがまた大変な労力です。でもどうしてもしなければなりません。1月  
の始めから3月下旬まで良くやったものでした。

3月下旬陸軍の兵隊3千人か4千人民家に分宿、鉄道の除雪作業を始めました。我が家にも2  
人2泊しました。今でいう人海戦術です。直江津から田口（妙高高原）まで汽車が動きました。  
勿論戦時物資の輸送が主体ですが客車も動き、私達、汽車通も高田の工場へ行き出しました。  
しかし学徒動員生はあまり仕事がないのです。材料の銅が無い、坩堝炉が破損したら予備品がな  
くなる、設備が故障したら部品がない、工員も手持ち無沙汰で士気も低迷。工場側では学徒動員  
生は迷惑だったようです。

#### 4. B 29 初飛来とルーズベルト大統領死去

4月12日、まだ積雪は3mくらいありました。はるか遠くの上空から聞きなれない飛行機の音、  
南から北へ、飛行機雲を引きながら飛んで行きました。「あれがB 29か」初めてみたB 29でした。  
その日ルーズベルト大統領が死んだと報道があり皆で小躍りして喜んだことを鮮明に覚えています。

其の後B 29は度々飛来しました。直江津に高射砲陣地があり、ある日B 29めがけて数發の  
高射砲を打ちましたが素人目に見てもはるか下方炸裂しているのがわかり屋根に上って見えていた  
我々はがっかりでした。しかし爆弾はこの後鑑積載機の飛来もありましたが焼夷弾、爆弾攻撃も  
全くありませんでした。アメリカ軍にとって重要度はなかったのでしょうか。

4月20日頃になると3.8メートルの大豪雪も消えポカポカと暖かい春がやってきました。ある  
日、工場の責任者が私を呼び「手伝ってくれ」と私だけオンボロの三輪のサイドカーに荷台を取  
り付けた今なら車検は通らない変な車に乗せられ1時間ほどかけて田舎の古ぼけた倉庫に行きま  
した。そこに電気銅の板があり3枚荷台に乗せるのですがクレーンも何もありません。1枚60  
数キロあるとのことですが、手袋もなにもありません。動員生徒みな暇を持てあましてい  
ますが、サイドカーですから乗れないのです。鉄板を3枚のせてガタガタ道を張り落されないよう  
に帰途につきました。あんな田舎の百姓家のような倉になぜ銅板があるのかは不思議でたまりま  
せませんでした。

#### 5. 道路工事へ

5月のある日我々27人は学校へ集合し、明日から道路工事へ行け、との命令でした。工事現場  
は私の家から徒歩で1時間半くらい、広々とした頸城平野のど真ん中です。道路工事現場へ行っ  
てみると、事務所らしい建屋もなく、現場で作業をしている朝鮮人が、一人で、ろくに枕木もな  
いトロッコの線路が5～60メートル。そこには土運搬のトロッコが一台だけ。スコップと鶴嘴  
が一丁だけ。勿論先生など引率者もいません。

それでも朝鮮人には連絡がしてあったとみえて「学生さんゆっくりやってください」言葉はす  
こしたドタドしいが人柄は良さそうでした。ゆっくりやるもなにも道具は何もなく私達はもう遊  
び半分、交代でトロッコを乗ったり押したり、昼は近くの関川で水遊びでした。

もうその頃は艦載機のグラマンが低空で飛来してきました。はじめは草叢に隠れましたが機銃  
掃射する様子もないので皆で悔しがりながら眺めていました。

この道路はのちの国道18号線になりました。郷里へ帰ったときに車に乗せてもらいあのあた

りを通ると 70 数年前の情景や友達の顔など思い出し、懐かしくなります。

## 6. 学校工場

2 週間に 1 回くらい登校日があり、学校へ行くと木工科の連中が忙しそうに働いていたのです。達の学校は高田商工学校で商科のほか建築科、木工科があったのです。木工施盤、ボール盤などがありました。それらの機械と強度試験の簡単な設備を作り木のドラム缶を作っていたのです。彼等はみな生き生きとして作業をしており私達はなんだか悪いことでもしたみたいな気持ちで落ち込みました。

私達のクラスも半数は陸軍の監督工場（本田鉄工所といったと思う）陸軍の監督工場は待遇も良く昼食にはおかずがでるなど待遇が良いようでした。（大島農機だったかもしれない）

## 7. 玉音放送

8 月 13 日から 15 日まで夏休み、15 日昼、天皇陛下の重大放送があるので聴くようにという村役場（豊里村）から通知があったとのことで、10 軒組の皆が集まり、私も聴きましたが雑音がひどく皆一様に「時局重大だから更に頑張れ」というようなことだろう、と解散しました。大人は昼寝、私は友達と川遊びに行きました。夕刻戻ると「日本は戦争に負けた。」昼の玉音放送は天皇自ら国民に知らせたのだという。一瞬信じられませんでした。しばらくすると物資はない、グラマンが飛んでくると。都会では毎日空襲など戦局はのんびきならぬところまできていることなど考えると悔しいけれど負けた実感がわきました。

19 日登校しました。先生の言葉もなんだか取り留めがなく戦争に負けるということはこんなことと自分で自分を納得するしかありませんでした。友達の中には「これでいやな教練がなくなる」と喜んでいる者もいましたが私はそんな気持ちにはなれませんでした。当然道路工事の現場にも行かないことになり毎日登校しましたが先生方もどのように授業をしたらよいのか迷っている様子でした。

## 8. 戦後の混乱

戦後は盗み、暴力事件などが多発、朝鮮人が大威張、やくざのような日本人との喧嘩もよく見掛けました。盗難も多発、我が家でも洗濯物が夜の間に盗難にあうとか畑の胡桃の実が夜の間に全部落とされて母がとてもガッカリしたこともありました。教科書も満足にない昭和 20 年のことです。汽車通学の私達は列車が大混乱、どの列車も超満員、男の生徒は意図的にぐずぐずして機関車の前部に乗ったりしました。しかし機関士は何も言わずそのまま発車しました。一番困ったのは超満員の列車の中でろくに風呂も入っていない浮浪者のような男の服に虱が這っているのを見かけ、2～3 日後私の肌着に虱がわいていたことです。

母親が大きな釜に湯を沸かし熱湯で消毒してくれましたが一家全員に虱がわき退治するまでに数ヶ月かからいました。とてもオゾマシイことですが事実です。

昭和 20 年は全国的に大変不作でもありました。化学肥料も配給で少なく海外に戦地に行った兵隊さんの復員もまだ始まったばかり人手も足りませんでした。我が家は徴兵で人手がない「へやっつあ」の「下たんぼ」…北の防雪林のすぐ南…約 1 反 1 畝(約 1100m<sup>2</sup>)を作っていたので全部で 3 反 4 畝の田を作っていたので約 30 俵の米が獲れたので少し供出するほどでした。この田は「へやっつあ」の当主が兵隊から帰ってきたので返しました。

## 9. 扶桑金属に入社（戦後財閥解体で住友金属工業は扶桑金属に社名変更

昭和 23 年の 1 月になると学生改革の発表があり 5 年で卒業してもよい新制高校に（更に 1 年残り）新

制高校第1期生となってもよい、ということになりました。我が家は経済的に苦しいのはわかっていましたので5年で卒業を選ぶことになるのですが就職は大変なことでした。国全体が荒廃してとても人を雇って事業をする会社はありません。

たまたま正念寺の「檀那」が月1回のお経上げにきたときそんな話がでたようです。だんなは婿にきた坊さんですが、当時1番大変な「中組」・・当時55軒あった・・の会長を55軒の総意でさせられていました。口は悪いがさすが坊主、公平でまっすぐな人でした。

「自分の兄貴」が大阪で会社勤めをしているから聞いてみてやる」とのことでした。1月の下旬に履歴書を送れということになりました。元々あまり成績は良くない自分でもまん中くらいだと思っていました。

ところが2月上旬に「会社の面接があるから出てこい。」とのこと。当時は鉄道の切符も簡単に買えない時代。だんなと私が直江津乗換で超満員の列車に乗り大阪へ向かいました。

大阪では駅から約15分くらいの大淀区豊崎の家にまいりました。藤本さんの自宅でした。藤本さんは扶桑金属の社員で後にわかったのですが庶務課で当時大変だった国鉄の乗車券を手配する仕事を担当していたのでした。

会社の面接は社長以下5人が30分ほど質問がありペーパーテストはありませんでした。戻ってきたその夜中電報がきて「採用する」とのこと。みんなびっくりでした。入社式は安土町の焼け残りのビルでした。後でわかったのですが淀屋橋にある住友ビルが進駐軍に接收され、このビルに移ってきたのでした。

昭和20年は全国的に大変不作でもありました。化学肥料も配給で少なく海外に戦地に行った兵隊さんの復員もまだ始まったばかり人手も足りませんでした。我が家は徴兵で人手がない「へやっつあ」の「下たんぼ」・・北の防雪林のすぐ南・・約1反1畝(約1100㎡)を作っていたので全部で3反4畝の田を作っていたので約30俵の米が獲れたので少し供出するほどでした。この田は「へやっつあ」の当主が兵隊から帰ってきたので返しました。

## 10. 扶桑金属に入社（戦後財閥解体で住友金属工業は扶桑金属に社名変更）

昭和23年の1月になると学生改革の発表があり5年で卒業してもよい新制高校に（更に1年残り）新制高校第1期生となってもよい、ということになりました。我が家は経済的に苦しいのはわかっていましたので5年で卒業を選ぶことになるのですが就職は大変なことでした。国全体が荒廃してとても人を雇って事業をする会社はありません。

たまたま正念寺の「檀那」が月1回のお経上げにきたときそんな話がでたようです。だんなは婿にきた坊さんですが、当時1番大変な「中組」・・当時55軒あった・・の会長を55軒の総意でさせられていました。口は悪いがさすが坊主、公平でまっすぐな人でした。

「自分の兄貴」が大阪で会社勤めをしているから聞いてみてやる」とのことでした。1月の下旬に履歴書を送れということになりました。元々あまり成績は良くない自分でもまん中くらいだと思っていました。

ところが2月上旬に「会社の面接があるから出てこい。」とのこと。当時は鉄道の切符も簡単に買えない時代。だんなと私が直江津乗換で超満員の列車に乗り大阪へ向かいました。

大阪では駅から約15分くらいの大淀区豊崎の家にまいりました。藤本さんの自宅でした。藤本さんは扶桑金属の社員で後にわかったのですが庶務課で当時大変だった国鉄の乗車券を手配する仕事を担当していたのでした。

会社の面接は社長以下5人が30分ほど質問がありペーパーテストはありませんでした。戻ってきたその夜中電報がきて「採用する」とのこと。みんなびっくりでした。入社式は安土町の焼け残りのビルでした。後でわかったのですが淀屋橋にある住友ビルが進駐軍に接收され、このビルに移ってきたのでした。

## 高田商業高校の沿革

1916年	大正 5.4.20	高田市立高田商工学校創立（尋6卒3年制乙種）
1921年	大正 10.3.31	高田市立高田商工学校3年制を5年制に改める
1926年	大正 15.4.1	新潟県立高田商工学校に改称
1944年	昭和 19.4.1	戦時措置令により土木科及び機械科を新設し商業科を機械科に転科する (此の一時期県立高田工業と改称)
1946年	昭和 21.4.1	機械科を商業科に復活する
1947年	昭和 22.4.1	学生改革により3年以下の生徒は併設中学校として収容
1947年	昭和 22.12.16	工業科（土木・建築・木材工芸）は南城町3丁目より 本城町（現上越総合技術高校校舎）に移転
1948年	昭和 23.4.1	新潟県立高田商業高校に改称
1972年	昭和 47.9.7	新校舎（上越市中田原・・・南高田）へ移転
1976年	昭和 51.8	新潟県立高田商業高校野球部甲子園出場
1976年	昭和 51.10.15	新潟県立高田商業高校創立60周年記念式典
2016年	平成 28.10.22	新潟県立高田商業高校創立100周年記念式典

## 葉書の由来

溝口良二（旧高田市南城町）



会社を退職してからNHKの深夜便を朝方寝床の中で聞いている。5月23日の放送で葉書の話が取り上げられた。はがきは元々紙片に書いた覚書「端書」が語源で、元来は「端書」、「羽書」と書かれていたそうだ。葉書の文字が使われるようになったのは、明治時代になってからである。もちろん近代郵便制度の創設者、上越出身の偉人前島密翁が採用したと言われている。葉書の葉とは多羅葉の葉のことで、戦国時代には通信に使われてその後「ハガキの木」と言われている。この葉は実際に宛先を明記し定型外の切手を貼れば使用出来る。

また、多羅葉の樹木は「郵便局の木」として定められ、全国の郵便局に植えられている。新型コロナウイルス感染のニュース一色の中で、葉書の由来の話を上越出身の桜井洋子さんの語りで聞き安堵した目覚めのひとときでした。

タラヨウ(多羅葉)



タラヨウ（多羅用）の葉

## 三不添（さんぷうてん）

町本一彦（旧高田市出身）



三不添、あるいは三不粘（さんぷうじゃん）と呼ばれる中華デザートをご存知でしょうか？

皿の上に、円く盛られた黄色の食べ物は、ほんのりと温かい。搗（つ）きたての鏡餅のようである。見た目にはベタベタしているが、まったくべたつかない。それどころか、箸でもすっきりと切り分けられる。「箸に付かず、器（うつわ）に付かず、歯に付かず」である。だから、三不添と呼ばれる。

三不添を知ったのは、香港だった。勤務先本社でうまくいかず、

---

お先真っ暗だった私は、1976年10月、香港支店転勤となった。その辞令は、雪国の冬空の重い雲の切れ間から射し込んできた陽光のようで、救われた思いがした。

世界で最も自由といわれた香港に来て、私は、生き返った。自分を迎えてくれたこの地を愛そうと思い、どんな些細な事でも積極的に取り組んだ。そうすると、現地でも友人ができて、ある日、夕食に誘われた。

行った先は、ハッピーバレイの中規模の店で、そこで出てきたのが、三不添である。見た目と全く違い、べたつかず、さっぱりとした甘さ。今まで口にしたことのない上品な味に驚いた。

店のマスターが挨拶に現れた。「あなたたちは運がいい。三不添は、技の要る料理で、作る料理人は香港でもほとんどいない。たまたま、今日だけ、その名人が来てくれた」と店のマスターは言って、厨房からその料理人を呼んで、紹介してくれた。

中背でやせ形、顔は長方形、黒縁のメガネをかけている。年は50歳くらいか。明日は、香港を出て、南に行くという。

それから20年ほどが経った。国内と海外の転勤を繰り返していた私も50歳となり、第二の職場に移った。神田駿河台にある200名ほどの会社である。

そこで、親密取引先のW氏を知る。懇親の席で、酒が入り、口も軽くなった私は、W氏に香港での三不添のことを話した。

それから数ヶ月後のこと、ある日、W氏がやってきて、「あれは大変な料理のようです」と告げた。なんでも、香港に行き、一流の料理店で三不添のことを訊ねたらしい。すぐに支配人が飛んできて「私どもでは無理ですが、たぶん、H飯店ならばと思います。車を用意させていただきます」と言い、リムジンでH飯店に案内された。しかし、そこで聞いたのは、昔、その職人がいたが、シンガポールに行ってしまったとの伝説だけだった。その後、W氏はシンガポールにも行ったが、ついに三不添に出会うことはなかった。

その後、世紀も改まった頃、神田の中華料理店R楼で宴会があった。羊肉のしゃぶしゃぶという北京料理のあと、まさかの三不添が出てきた。あれだけ探してもないものが、まさに足元にあったのだ。

翌日、いの一番に、そのことをW氏に告げ、数日後、W氏とともにR楼に出かけた。店主兼料理人が出てきたが、びっくり。その容貌が20年ほど前に会った、あの時の料理人とそっくりではないか。もちろん別人だ。三不添を北京の同和居で覚えたという。この店主によれば「材料はシンプルだが、短時間に力を集中し、しかも微妙な技（わざ）を要する。料理人の腕を試す料理だ」といい、そして、「デザートだから、料金を高くできず、労力に見合わない。だから、作る人は、私を含めて非常に少ない」と寂しげに語った。

その帰り際、さらに驚いた。レジに、なんと、私と同じ会社の女子社員が座っているではないか。W氏も知る社員で、聞けば、店主の娘さんだという。

香港の料理人に酷似の店主、その娘、W氏と私、という変な結びつき。三不添を通じて、この奇妙な縁の体験を共有したW氏とは、そのとき、商売を超えて、知人から友人となった。年を経るごとに、W氏とはますます親しくなり、これから先も、お付き合いは深まっていくだろう。

「箸に付かず、器（うつわ）に付かず、歯に付かず」の付かないづくしの三不添が、我々を不思議な縁で結び付けてくれたのである。

いま、香港は、香港国家安全維持法の施行で大変な局面にある。自由を求める香港市民は、どうなるのだろうか。あの当時の香港で出会った人たちを思い出しては、憂うことしかできない自分をもどかしく、情けなく感じている。第二の故郷香港の人たちと自由との縁が切れないようにと縁結びの三不添に、強く祈るばかりである。

鯉橋でございます。

6月からようやく寄席も、人数制限、入口での検温・消毒やマスク着用などの制約付きで再開されてはおりますが、ここ数日は東京で三ヶタの新規感染判明者が報道されており、私としましては積極的に宣伝しづらい状況で、下記出演予定は「鯉橋もなんとか生存しています」という近況報告のようなもの(苦笑)。

8月、新型コロナがもう少し収まっていたら、どうぞよろしく願い申し上げます。

皆様には、くれぐれもお気をつけてお過ごしくださいますよう。

新型コロナ感染の報道と掛けて、やる気のない生け花、と解く。その心は「ソウカばかりで気が滅入るよ、ホント」失礼いたしました!瀧川鯉橋拝

《瀧川鯉橋、今後の主な出演予定》

(令和2年7月14日現在)

◎全てのお問合せは、rik\_yoh\_taki@taupe.plala.or.jp (鯉橋メールアドレス)、または、03-3845-1202 (鯉橋)からも承ります。  
鯉橋ブログ「七転び八起き of 末のホンダラダ」でも随時更新掲載しております。

◇8/6 (木)～10 (月・祝) 上野広小路亭・昼の部

時間：正午～午後4時半

※鯉橋の出番は1時ごろ。

木戸銭：2000円

主任：三遊亭遊吉。

ほかに松鯉、ボンボンブラザーズなど出演。

お問合せ：03-3833-1789 (上野広小路亭)

◇8/18 (火)～20 (木) 池袋演芸場・昼の部

時間：午後0時半～4時半

※鯉橋の出番は1時15分ごろ

木戸銭：2800円(65才以上、2300円)

主任：瀧川鯉昇。ほかに桃太郎、竹丸など出演。

お問合せ：03-3971-4545(池袋演芸場)

◇8/25 (火) お江戸日本橋亭「鯉橋の会in日本橋亭 vol.13」

時間：午後6時～8時半ごろ。

木戸銭：2000円(前売・予約1500円)

出演：小とり、鯉橋、円雀一お仲入り一鯉八、よし乃(太神楽)、鯉橋「質屋庫」以上、出演順。

会場：お江戸日本橋亭(三越前)

お問合せ：03-5909-3080(落語芸術協会)

◇8/27 (木) お江戸日本橋亭、柏枝さんの会

時間：午後6時～8時半ごろ。

木戸銭：2000円(前売・予約1500円)

出演：春風亭柏枝(2席)、鯉橋ほか。

会場：お江戸日本橋亭(三越前)

お問合せ：03-5909-3080(落語芸術協会)

◇9/15 (火) 銀座イタリー亭「落語&賞味会」

時間：午後6時半から落語、7時10分ごろからお食事。

木戸銭：8800円(フルコース料理、ワイン代含む)

出演：鯉橋

会場：銀座イタリー亭(銀座1-6-8)

お問合せ：03-3564-2371(イタリー亭)

●●●●●●●●●●●●●●●● J ネットからののお知らせとお願い ●●●●●●●●●●●●●●●●

1. 新型コロナウイルスの影響

コロナ禍もしつこく続いておりますが、未曾有の事態が続く、当会活動も予定変更ばかりです。会員はじめ皆さまには十分ご注意ください、お体ご自愛ください。

2. 記事、寄稿、投稿、メッセージをお願いします。

今号は、会員からの投稿が増え、頁を増やしました。「たより」は会員の皆様で作るものですので、大歓迎です。「たより」に、ご自身のこと、上越のこと、なんでも結構ですから、原稿を事務局までお寄せください。皆さまの貴重なお話は、読み手を元気にします。原稿の体裁などは編集段階でご相談いたしますので、形式にこだわらず、どしどしお寄せください。

◎次号「たより」は8月25日の発行です。